

東京アートミーティング(第3回) アートと音楽—新たな共感覚をもとめて

平成24年10月27日(土)→平成25年2月3日(日)



セレスト・ブルシエムジュノ 《バリエーション》 2009年
ピナコテカ(サンパウロ)での展示風景
© Celeste Boursier-Mougenot.
Courtesy of Paula Cooper Gallery, New York and Galerie
Xippas, Paris
Photo: Isabella Mathgus [参考図版]

音楽とヴィジュアルアートは互いに密接な関係をもちながら進化してきました。20世紀の初め、作品がさまざまな感覚を呼び起こすような総合芸術をめざしたカンディンスキーや、音楽を記号的な正確さでイメージ化しようとしたクレーがその例です。聴覚と視覚を横断することで可能となる、豊かな感性の領域と表現の広がりには60年代のジョン・ケージらによってより実験的な形で検証されました。

そして今デジタル技術の発達によりイメージはピクセルに分解されて記号や数値として処理され、音もPCのディスプレイ上で視覚的に作曲されるなど、アートと音楽はその創作の過程においても近似しています。一つのコンピュータで映像、画像、音を同等に扱う世代のクリエイターたちは、より密接な、「新たな共感覚」とでも呼べる総合感覚をもって、多様な表現を試みています。本展は総合アドバイザーに音楽家の坂本龍一を迎え、この二つの表現が交差、連動することで生まれてくる多様な作品の紹介を通して、今「私たちの時代の」見ること、聴くことの本質的な意味を問いかけます。

長谷川祐子(本展企画者/東京都現代美術館チーフ・キュレーター)

展覧会によせて

アートと音楽は、二つの異なるジャンルということになっている。しかし音をもってするアート、あるいは視覚表現による音楽というものも、あるんじゃないか。また、アートとも音楽とも、どちらとも言えず、どちらとも言える表現というものもあるんじゃないか。アートと音楽による共感覚、またその境界領域を探ることで、ヒトの芸術表現の根源だけでなく、その未来も垣間見えるんじゃないか、そんな期待をこめてこの展覧会は催されます。

本展総合アドバイザー 坂本龍一

坂本龍一 さかもとりゆういち
1990年より米国、ニューヨーク州在住。

1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年、細野晴臣、高橋幸宏と『YMO』を結成。解散後も、音楽・映画・出版・広告などメディアを越え活動。1984年、自ら出演し音楽を担当した『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞他を、映画『ラストエンペラー』の音楽でアカデミー賞、グラミー賞他受賞。常に革新的なサウンドを追求する姿勢は世界的評価を得ている。以後、活動の中心は欧米へ。2006年新たな音楽コミュニティの創出を目指し「commons」を設立。1999年制作のオペラ『LIFE』以降、環境・平和問題に言及することも多い。

2001年自然エネルギー利用促進を提唱するアーティスト団体「artists' power」を創始、2003年にはそのメンバーでもあった、小林武史、櫻井和寿に協力し非営利組織「ap bank」の設立に参加した。2006年六ヶ所村核燃料再処理施設稼働反対を表明し「stop-rokkasho.org」をスタートさせた。2007年7月には「more trees」の設立を発表し、温暖化防止についての啓蒙や森林保全、植樹活動を行うなど活動は多岐にわたっている。

3月11日の震災後「kiuznaworld.org」(<http://kizunaworld.org/>)「LIFE311 - by more trees」(<http://life311.more-trees.org/>)「こどもの音楽再生基金 - School Music Revival」(<http://www.schoolmusicrevival.org/>)などの被災者支援プロジェクトを立ち上げ、継続した活動を行っている。本年7月7日、8日には脱原発を提唱する音楽イベント「NO NUKES 2012」を組織した。

本展では 作家としても参加。高谷史郎とのコラボレーションの新作《collapsed》と、オノセイゲン、高谷史郎とのコラボレーションである茶室から想を得た《silent》を出品予定。

本展の見どころ

世界的な音楽家のひとりである坂本龍一を総合アドバイザーに迎え、現代における音楽とアートの新しい関係について問いかけます。大きなスケールの展示空間に、「見ること」と「聴くこと」が交錯する個性豊かな作品が展示されます。

坂本龍一が世界屈指の音響デザインを手掛けるオノセイゲンや「ダムタイプ」創立メンバーの一人である高谷史郎とコラボレーションし、新作インスタレーション2点を展示します。小さな空間から無限大の宇宙を聴く、日本の茶室からインスピレーションを得た《silence spins》と、2台のピアノとレーザーを用いた《collapsed》は必見です。

国際的な活動をしている同時代のアーティストによる日本未公開の作品を公開します。フロリアン・ヘッカーの立体的なサウンド・インスタレーションやクリスティーネ・エドルンドの植物の危険信号から生み出された楽譜と音楽など国際性豊かな表現を多数紹介します。

カンディンスキー、クレーの絵画やジョン・ケージや武満徹の図形楽譜など、現代の視点だけではなく、歴史的な観点からもアーティストや音楽家がこれまでどのように音楽と視覚芸術との関係の探求を試みてきたかを紹介します。

出品作家(アルファベット順)

セレスト・ブルシエ＝ムジュノ | Céleste Boursier-Mougenot

ジョン・ケージ | John Cage

マノン・デ・ブール | Manon de Boer

フロリアン・ヘッカー | Florian Hecker

池田亮司 | Ryoji Ikeda

ワシリー・カンディンスキー | Wassily Kandinsky

パウル・クレー | Paul Klee

ウドムサック・クリサナミス | Udomsak Krisanamis

カールステン・ニコライ | Carsten Nicolai

大西景太 | Keita Onishi

オノセイゲン＋坂本龍一＋高谷史郎 | Seigen Ono + Ryuichi Sakamoto + Shiro Takatani

大友良英リミテッド・アンサンブルズ(大友良英、青山泰知、Sachiko M、堀尾寛太、毛利悠子)

Otomo Yoshihide limited ensembles(Otomo Yoshihide, Yasutomo Aoyama, Sachiko M, Kanta Horio, Yuko Mohri)

クリスティーネ・エドルンド | Christine Ödlund

坂本龍一＋高谷史郎 | Ryuichi Sakamoto + Shiro Takatani

ザ・サイン・ウェーブ・オーケストラ | The SINE WAVE ORCHESTRA

武満徹 | Toru Takemitsu

田中未知・高松次郎 | Michi Tanaka / Jiro Takamatsu

バルトロメウス・トラウベック | Bartholomäus Traubeck

ステファン・ヴィティエロ | Stephen Vitiello

八木良太 | Lyota Yagi

セレスト・ブルシエ＝ムジュノ | Céleste Boursier-Mougenot

[1961年ニース生まれ、セツ(フランス)在住]

セレスト・ブルシエ＝ムジュノは、日常において雑音とされるような音を独自の方法をもって再現する。生きた小鳥にエレキギターの弦をはじかせる《from here to ear》(2008年-)、13個の掃除機にハーモニカと音が生じる度に光るランプをつけた《ハーモニカオス》(2000-06年)、座る部分が鍵盤で出来ている3つの椅子《キーボードチェア》(1997-2006年)など、彼が手がけるサウンド・インスタレーションの数々は非日常的な視覚空間の中に聞き覚えのある音の要素を含んでいる。本展では、水を張ったプールに複数の磁器が浮かべられ、水の流れによって器がぶつかり合って音を奏でる《バリエーション》(2009年)を出品する。

フロリアン・ヘッカー | Florian Hecker

[1975年アウグスブルク生まれ、キッシング(ドイツ)とヴェネツィア在住]

コンピュータ言語学と心理言語学を学んだのち、ウィーン美術アカデミーで学位を取得。知覚の構造やメカニズムを鋭く分析し、「心理音楽」とよばれる高度に複雑で挑戦的な電子音響を発表する。また音楽の分野にとどまらず美術でも革新的な活動をつけており、2010年フランクフルト現代美術館(MMK)での個展や、2012年のドクメンタ13にも出展する。本展では、《3チャンネル・クロニクス》(2010年)を出品する。

カールステン・ニコライ | Carsten Nicolai

[1965年旧東ドイツ、カール・マルクス生まれ、ベルリンおよびケムニッツ在住]

美術と音楽のふたつの領域を横断的に活動している。1990年代初頭に音楽活動を開始するが、「noto」あるいは「alva noto」と名乗り、自身のレーベル「ラスター・ノート」を主宰する。こうした視覚芸術と音楽をまたぐニコライの活動は、視覚体験と聴覚体験を同時にもたらす共感的な作品をしばしば生み出してきた。例えば、本展出品作品である写真作品《ミルク》(2000年)は、音の振動によって牛乳の表面に幾何学的パターンを生み出し、その瞬間を撮影したものである。本展ではまた、新作インスタレーションも発表する。

クリスティーネ・エドルンド | Christine Ödlund

[1963年ストックホルム生まれ、同地在住]

クリスティーネ・エドルンドが手掛ける作品は、音楽からアニメーション、ビデオ、ドローイング、インスタレーションまで幅広い。動植物や細菌のライフサイクルに関心を持ち、長年スウェーデン王立工科大学の研究者たちと協力しながら制作している。普段目にしたり耳にしたりすることのない細菌の姿や植物が発する信号を音と映像をもって再現し、人間とそれら生命との橋渡しの方法を追求している。本展では、シータテハ蝶の幼虫に襲われる植物の危険信号を表現した映像《セイヨウイラクサの緊急信号》(2010年)と水彩で描かれたそのスコアを出品する予定。

大友良英 | Otomo Yoshihide

[1959年神奈川県生まれ、東京都在住]

音楽家/プロデューサー。ONJT、幽閉者、FENなど複数のバンドを率いて活動する一方で、Filament、I.S.O、音遊びの会など数多くのバンドやプロジェクトに参加するなど、多くのアーティストと積極的にコラボレーションを行っている。また、映画やテレビドラマへの楽曲提供、プロデュース・ワーク等その活動は多岐にわたる。2011年、東日本大震災を受け設立された「プロジェクトFukushima!」では、遠藤ミチロウ、和合亮一とともに共同代表を務めている。近年では美術家や建築家、さらには一般市民とのコラボレーション作品を次々と発表しており、本展では青山泰知、Sachiko M、毛利悠子、堀尾寛太とのコラボレーションによる「大友良英リミテッド・アンサンブルズ」として、天井高約20メートルの巨大空間アトリウムにて大型インスタレーションを展開する。

高谷史郎 | Shiro Takatani



[1963年奈良県生まれ、京都府在住]

1984年よりアーティスト・グループ「ダムタイプ」のメンバーとしてパフォーマンスやインスタレーションの制作に携わり、ビジュアルワークを総合的に担当。個人的活動としては、1999年坂本龍一オペラ《LIFE》の映像ディレクションや、高速の映像をノイズの美学に昇華するなど多くの実験的な映像インスタレーションを制作している。本展では坂本とのコラボレーションで新作《collapsed》を発表するが、ここでは、ピアノの音に連動してレーザーが空間の壁にテキストを映し出していく。知的で批評的なコンテンツをデジタル世代のスピード感と独特の光の効果の中で視覚化する先鋭的な作家の一人。

八木良太 | Lyota Yagi

[1980年愛媛県生まれ、京都府在住]

八木良太はレコードやビデオなど「誰が使っても同じ効果が得られる」と思われている日常的な装置を、風変わりな方法で用いる。そこから得られる音や映像のずれや特徴は私たちの意識の盲点をつくような驚きを与えてくれる。出品作、氷のレコードは、レコードの溝を複製するシリコン性の型に入れた水を凍らせることでできたレコードをプレーヤーにかけて音をきくもの。ミュージックコンクリートの精神を継承しながら、変化するもの、消滅の美学を現代的感性で表現している。

展覧会名	東京アートミーティング(第3回)「アートと音楽-新たな共感覚をもとめて」
会期	平成24年10月27日(土)～平成25年2月3日(日)
開館時間	10:00～18:00(入場は17:30まで)
会場	東京都現代美術館(〒135-0022 江東区三好4-1-1) 企画展示室B2F、1F
休館日	月曜日 ただし12/24、1/14は開館、12/25、年末年始(12/28～1/1)、1/15は休館
主催	東京都、東京都現代美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京新聞
助成	芸術文化振興基金 
協力	NECディスプレイソリューションズ株式会社/ ヤマハ株式会社/ AURAL SONIC SHIZUKA STILLNESS PANEL/ 株式会社オーディオテクニカ/ 株式会社バラッド 山口情報芸術センター[YCAM]/ 株式会社シタックスジャパン/ IASPIS 
観覧料	一般1,100円/ 大学生・65歳以上850円/ 中高生550円/ 小学生以下無料 *20名以上の団体は2割引 *本展チケットでMOTコレクションもご覧になれます。 *身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と付添者2名は無料。
交通案内	東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
関連イベント	第46回MOT美術館講座 「d. v. dライブ・パフォーマンス」11月18日(日)定員:200名 入場無料 「青葉市子ライブ・コンサート」12月23日(日)定員:200名 入場無料 他 講演会を予定 その他イベントに関しましては、詳細が決まり次第ホームページでご案内いたします。
展覧会カタログ お問い合わせ	2012年10月27日(土)、フィルムアート社より刊行予定 03-5245-4111(代表)/ 03-5777-8600(ハローダイヤル) 「アートと音楽」展公式サイト http://www.mot-art-museum.jp/music/ 東京都現代美術館 HP http://www.mot-art-museum.jp/
総合アドバイザー 展覧会スタッフ	坂本龍一 企画 長谷川祐子/ 学芸スタッフ 吉崎和彦 加藤弘子 崔敬華
同時開催	「Tokyo Sonic Art Weeks」10月27日(土)～2月3日(日) 「アートと音楽展」とテーマを共有し、館内外において公募コンペティションのグランプリ作品展示やコンサートなどを開催します。(会場 東京藝術大学、東京都現代美術館他) 「MOTアニュアル2012 Making Situations, Editing Landscapes 風が吹けば桶屋が儲かる」 10月27日(土)～2月3日(日) 企画展示室3F 「MOTコレクション 私たちの90年:1923-2013 ふりかえりつつ、前へ」 10月27日(土)～2月3日(日) 常設展示室
広報お問い合わせ	東京都現代美術館 事業推進課企画係 広報班 野口 r-noguchi@mot-art.jp 小原 k-ohara@mot-art.jp 東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141

【東京文化発信プロジェクト】

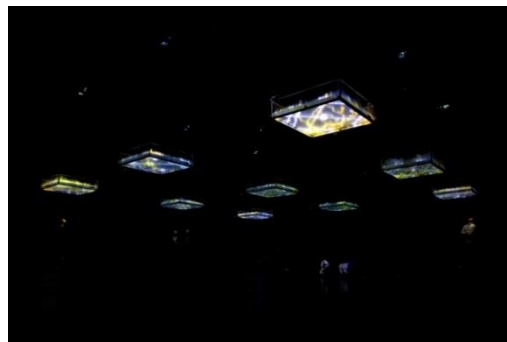
東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

広報用図版

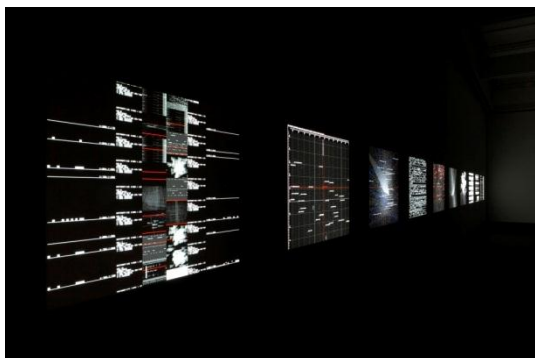
広報用として下記6点をご用意しております。
掲載ご希望の方はお手数ですが別紙にご記入の上、FAXもしくはメールにてご連絡ください。



①
大友良英+青山泰知
《without records》2008年
写真提供: 山口情報芸術センター[YCAM]
撮影: 丸尾隆一(YCAM)
【参考図版】



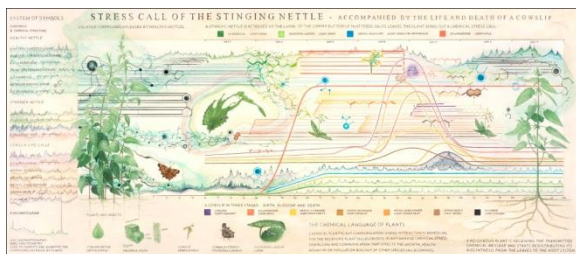
②
坂本龍一+高谷史郎
《LIFE - fluid, invisible, inaudible...》2007年
YCAM委嘱作品
Photo: 丸尾隆一(YCAM)
写真提供: 山口情報芸術センター [YCAM]
【参考図版】



③
池田亮司
data.matrix [n° 1-10] 2006-09年
©2009 ryoji ikeda
Photo: 丸尾隆一
Courtesy of Gallery Koyanagi, Tokyo



④
セレスト・ブルシエムジュノ 《パリエーション》 2009年
ピナコテカ(サンパウロ)での展示風景
© Celeste Boursier-Mougenot.
Courtesy of Paula Cooper Gallery, New York and Galerie Xippas, Paris
Photo: Isabella Mathgus[参考図版]



⑤
クリスティーネ・エドルンド
《セイヨウウラクサの緊急信号》2010年
Courtesy Galleri Riis, Oslo / Stockholm
Photo : Jean-Baptiste Beranger



⑥
ワシリー・カンディンスキー
《E.R.キャンベルのための壁画No.4》の習作(カーニバル・冬)
1914年 宮城県美術館蔵

広報お問い合わせ先

東京都現代美術館 広報班

TEL 03-5245-1134(広報直通) FAX 03-5245-1141

野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp 小原久美子 k-ohara@mot-art.jp

東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班宛

FAX. 03-5245-1141

本展覧会広報用素材として、6点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

媒体名: 『.....』

○印をおつけください

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日:

御社名:

ご担当者名:

Eメールアドレス:

@

(〒 -)

ご住所:

お電話番号:

FAX:

ご希望の図版番号に ✓ をおつけください。

①

大友良英+青山泰知 《without records》2008年
写真提供: 山口情報芸術センター[YCAM]
撮影: 丸尾隆一(YCAM)【参考図版】

②

坂本龍一+高谷史郎《LIFE - fluid, invisible, inaudible...》2007年 YCAM委嘱作品
Photo: 丸尾隆一(YCAM)
写真提供: 山口情報芸術センター[YCAM]【参考図版】

③

池田亮司《data.matrix [n° 1-10] 2006-09年 ©2009 ryoji ikeda
Photo: 丸尾隆一
Courtesy of Gallery Koyanagi, Tokyo

④

セレスト・ブルシエ＝ムジュノ 《バリエーション》2009年
ピナコテカ(サンパウロ)での展示風景
© Celeste Boursier-Mougenot. Courtesy of Paula Cooper Gallery, New York and Galerie Xippas, Paris
Photo: Isabella Mathgus

⑤

クリスティーネ・エドランド 《セイヨウイラクサの緊急信号》2010年
Courtesy Galleri Riis, Oslo / Stockholm
Photo: Jean-Baptiste Beranger【参考図版】

⑥

ワシリー・カンディンスキー
《F.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作(カーニバル・冬)》1914年
宮城県美術館蔵

プレゼント用招待券をご希望の場合は✓をおつけください。 10名様 / 20名様

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班

野口 r-noguchi@mot-art.jp 小原 k-ohara@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141